



Cisco UCS 6100 シリーズ Fabric Interconnect の接続

Cisco UCS 6100 シリーズ Fabric Interconnect には次のポートがあります。

- RS-232 ポート：ローカル管理接続を作成します。
- イーサネット ポート（暗号化および非暗号化）：LAN に接続します。
- ファイバ チャネル ポート：SAN に接続します。

この章の内容は、次のとおりです。

- 「ネットワーク接続の準備」(P.3-1)
- 「コンソールポートへの接続」(P.3-1)
- 「イーサネットコネクタポートへの接続」(P.3-3)
- 「イーサネットポートへの接続」(P.3-3)
- 「ファイバチャネルポートへの接続」(P.3-6)

ネットワーク接続の準備

Cisco UCS 6100 シリーズ Fabric Interconnect のネットワーク接続を準備するときは、各インターフェイスタイプについて次の事項を考慮し、ポートを接続する前に必要なすべての機器を揃えてください。

- 各インターフェイスタイプに必要なケーブル
- 各信号タイプの距離制限
- 必要な他のインターフェイス機器

コンソールポートへの接続

コンソールポートは、RJ-45 インターフェイスを備えた RS-232 ポートです（図 3-1 を参照）。コンソールポートは非同期シリアルポートです。このポートに接続する装置は、非同期転送に対応している必要があります。

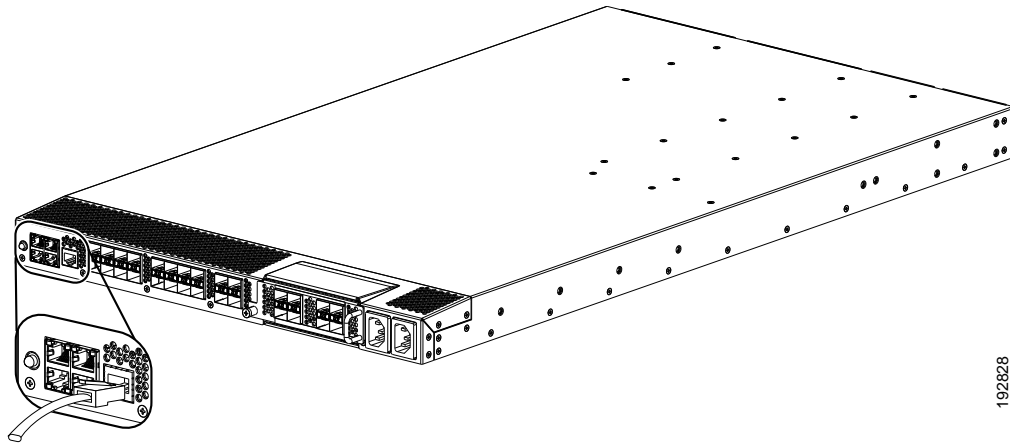
このポートを使用してローカル管理接続を作成し、システムを最初にネットワークに接続する前に、IP アドレスなどの初期構成設定を行うことを推奨します。

**注意**

コンソールポートを使用して、モデムに接続できます。モデムに接続しない場合は、システムの電源を投入する前またはシステムがブートプロセスを完了した後で接続します。

図 3-1 に、Cisco UCS 6120XP のコンソールポートに接続する方法を示します。

図 3-1 Cisco UCS 6120XP のコンソールポートへの接続



コンソールポートを使用して、次の作業を実行できます。

- CLI から Cisco UCS 6100 シリーズ Fabric Interconnect を設定する。
- ネットワーク統計情報およびエラーを監視する。
- SNMP エージェントのパラメータを設定する。
- ソフトウェアアップデートをダウンロードする。

**(注)**

コンソールポートをコンピュータターミナルに接続するには、そのコンピュータが VT100 ターミナルエミュレーションをサポートしている必要があります。ターミナルエミュレーションソフトウェア（通常、HyperTerminal または Procomm Plus などの PC アプリケーション）は、セットアップおよび設定中に Cisco UCS 6100 シリーズ Fabric Interconnect とコンピュータの間の通信を確立します。

コンソールポートをコンピュータターミナルに接続する手順は、次のとおりです。

- ステップ 1** デフォルトポート特性（9600 ボー、8 データビット、1 ストップビット、パリティなし）に一致するように、ターミナルエミュレータプログラムを設定します。
- ステップ 2** コンソールケーブルの RJ-45 コネクタをコンソールポート（図 3-1 を参照）に接続し、DB-9 コネクタをコンピュータのシリアルポートに接続します。



(注) 設定の方法については、『Cisco UCS Manager CLI Configuration Guide』を参照してください。

イーサネット コネクタ ポートへの接続

**注意**

IP アドレスの衝突を防ぐため、初期設定が完了するまで、管理ポートをネットワークに接続しないでください。設定の方法については、『[Cisco UCS Manager GUI Configuration Guide](#)』を参照してください。

イーサネット コネクタ ポートには、RJ-45 インターフェイスが装備されています。

イーサネット コネクタ ポートを外部ハブ、スイッチ、またはルータに接続する手順は、次のとおりです。

- ステップ 1** イーサネット コネクタ ポートに、対応するモジュラ ケーブルを接続します。
- イーサネット コネクタ ポートをイーサネット スイッチのポートまたはハブに接続するには、ストレート UTP ケーブル（モジュラ、RJ-45）を使用します。
 - ルータ インターフェイスに接続するには、クロス ケーブルを使用します。
- ステップ 2** ケーブルの反対側を装置に接続します。

イーサネット ポートへの接続

SFP+ トランシーバを使用して、イーサネット ポートに接続します。

ここでは、次の内容について説明します。

- 「[SFP+ トランシーバの取り付けおよび取り外し](#)」 (P.3-3)
- 「[SFP+ トランシーバのケーブルの取り付けまたは取り外し](#)」 (P.3-5)
- 「[SFP+ トランシーバおよびケーブルのメンテナンス](#)」 (P.3-6)

SFP+ トランシーバの取り付けおよび取り外し

**注意**

SFP+ トランシーバの取り外しおよび取り付けを過度に行うと、耐用年数が短くなります。SFP+ トランシーバの取り外しおよび取り付けは、必要な場合以外には行わないでください。SFP+ トランシーバの取り付けまたは取り外しを行う際は、ケーブルやトランシーバの破損を防止するため、ケーブルを抜いた状態で行うことを推奨します。

ここでは、SFP+ トランシーバの取り付けおよび取り外しについて説明します。

ここでは、次の内容について説明します。

- 「[SFP+ トランシーバの取り付け](#)」 (P.3-4)
- 「[SFP+ トランシーバの取り外し](#)」 (P.3-4)

SFP+ トランシーバの取り付け

SFP+ トランシーバを取り付ける手順は、次のとおりです。

-
- ステップ 1** 静電気防止用リストストラップを取り付けて、使用手順に従います。
- ステップ 2** ポート ケージのダスト カバーを外します。
- ステップ 3** トランシーバのポート側のダスト カバーを外します。
- ステップ 4** 次のようにトランシーバをポートに差し込みます。
- マイラー タブ付きのトランシーバの場合、タブが下にくるようにし、ポートにしっかりとハマるまでトランシーバをゆっくり差し込みます。
 - ベールクラスプ付きのトランシーバの場合、クラスプが下になるようにし、クラスプを持ち上げてトランシーバの上部で閉じてから、ポートにしっかりとハマるまでトランシーバをゆっくり差し込みます。



注意

トランシーバが取り付けにくい場合は、トランシーバの向きと、タブやクラスプの位置が正しいかどうかを確認してください。



(注)

ケーブルをトランシーバに接続できない場合は、トランシーバのケーブル側にダスト プラグを取り付けるか、またはそのままにします。

SFP+ トランシーバの取り外し

SFP+ トランシーバを取り外す手順は、次のとおりです。

-
- ステップ 1** 静電気防止用リストストラップを取り付けて、使用手順に従います。
- ステップ 2** トランシーバにケーブルが接続されている場合は、次の手順を実行します。
- a. あとで参照するために、ケーブルとポートの接続を記録しておきます。
 - b. ケーブルのリリース ラッチを押し、コネクタの接続部付近をつかんで、コネクタをトランシーバからゆっくり引き抜きます。
 - c. ダスト プラグを、トランシーバのケーブル側に差し込みます。



注意

次の手順でトランシーバが容易に外せない場合は、トランシーバを完全に押し込んで、ラッチが正しい位置にあるかどうか確認してください。

- ステップ 3** ポートからトランシーバを取り外します。
- マイラー タブ ラッチ付きのトランシーバの場合、タブをまっすぐに（ひねらずに）ゆっくり引っ張り、ポートからトランシーバを抜き取ります。
 - ベールクラスプ ラッチ付きのトランシーバの場合、下方向にクラスプを押し開き、ポートからトランシーバを抜き取ります。



(注) SFP+ トランシーバを取り外せない場合は、一旦ベールクラスプを上への位置に戻して SFP+ を再固定します。そして、SFP+ トランシーバをケージの内側に向かって上向きに押し込みます。次に、ベールクラスプを下へ下げ、SFP+ トランシーバに軽く上向きの力をかけながら引き出します。このとき、ポート ケージを傷つけないよう注意してください。

- ステップ 4** トランシーバを工場に返送する場合は、トランシーバのポート側にダスト カバーを挿入し、トランシーバを静電気防止用マットの上に置くか、または静電気防止袋に入れます。
- ステップ 5** 別のトランシーバが取り付けられていない場合は、オプティカル ケージにきれいなカバーを挿入して保護します。

SFP+ トランシーバのケーブルの取り付けまたは取り外し



注意

銅ケーブルの損傷を防ぐために、ケーブルに公称制限値を超える張力をかけないでください。また、ケーブルに張力がかかっていない場合でも、ケーブルを半径 1 インチ未満に曲げないでください。ケーブルに張力がかかっている場合は、半径 2 インチ未満に曲げないでください。

ここでは、次の内容について説明します。

- 「SFP+ トランシーバへのケーブルの取り付け」 (P.3-5)
- 「SFP+ トランシーバからのケーブルの取り外し」 (P.3-6)

SFP+ トランシーバへのケーブルの取り付け



注意

ケーブルやトランシーバの破損を防止するため、トランシーバへのケーブルの取り付けは、トランシーバをポートに設置してから行ってください。

トランシーバにケーブルを取り付ける手順は、次のとおりです。

- ステップ 1** 静電気防止用リストストラップを取り付けて、使用手順に従います。
- ステップ 2** ケーブルのコネクタのダスト カバーを外します。
- ステップ 3** トランシーバのケーブル側のダスト カバーを外します。
- ステップ 4** ケーブル コネクタをトランシーバに合わせ、しっかりとまるまでコネクタをトランシーバに差し込みます。



注意

ケーブルを取り付けにくい場合は、ケーブルの向きを確認してください。

接続の確認手順については、『Cisco UCS Manager GUI Configuration Guide』を参照してください。

SFP+ トランシーバからのケーブルの取り外し



注意

トランシーバからケーブルを引き抜くときは、ケーブルのコネクタ部分を持ってください。コネクタの光ファイバケーブル端子が損傷することがあるので、ジャケット スリーブを持って引っ張らないでください。



注意

ケーブルを抜きにくい場合は、ケーブルのラッチが外れているかどうか確認してください。

ケーブルを取り外す手順は、次のとおりです。

- ステップ 1** 静電気防止用リストストラップを取り付けて、使用手順に従います。
- ステップ 2** ケーブルのリリース ラッチを押し、コネクタの接続部付近をつかんで、コネクタをトランシーバからゆっくり引き抜きます。
- ステップ 3** ダスト プラグを、トランシーバのケーブル側に差し込みます。
- ステップ 4** ダスト プラグを、ケーブル端に差し込みます。

SFP+ トランシーバおよびケーブルのメンテナンス

高精度の信号を維持し、コネクタの損傷を防ぐためには、SFP+ トランシーバを常に埃のない清潔な状態に保つ必要があります。減衰（光損失）は汚れによって増加します。減衰量は 0.35 dB 未満でなければなりません。

メンテナンスの際には、次の注意事項に従ってください。

- SFP+ トランシーバは静電気に敏感です。静電破壊を防止するために、シャーシに接続している静電気防止用リストストラップを着用してください。
- トランシーバの取り外しおよび取り付けは、必要以上に行わないでください。取り付けおよび取り外しを頻繁に行うと、耐用年数が短くなります。
- 未使用の光接続端子には、必ずカバーを取り付けてください。埃が付着した場合には、埃によって光ファイバケーブルの先端が傷つかないように、使用前に清掃してください。
- 指紋などで汚れることがあるので、コネクタの先端には手を触れないでください。
- 定期的に清掃してください。必要な清掃の頻度は、設置環境によって異なります。また、埃が付着したり、誤って手を触れたりした場合には、コネクタを清掃してください。ウェットクリーニングやドライクリーニングが効果的です。設置場所の光ファイバ清掃手順に従ってください。
- 埃が付着していないこと、および損傷していないことを定期的に確認してください。損傷している可能性がある場合には、清掃後に顕微鏡を使用してファイバの先端を調べ、損傷しているかどうかを確認してください。

ファイバチャネルポートへの接続

SFP トランシーバを使用して、ファイバチャネルポートに接続します。

ここでは、次の内容について説明します。

- 「SFP トランシーバの取り付けおよび取り外し」 (P.3-7)
- 「SFP トランシーバのケーブルの取り付けまたは取り外し」 (P.3-9)
- 「SFP トランシーバおよび光ファイバケーブルのメンテナンス」 (P.3-10)

SFP トランシーバの取り付けおよび取り外し



注意

SFP トランシーバの取り付けおよび取り外しを過度に行うと、耐用年数が短くなります。SFP+ トランシーバの取り外しおよび取り付けは、必要以上に行わないでください。SFP トランシーバの取り付けまたは取り外しを行う際は、ケーブルやトランシーバの破損を防止するため、ケーブルを抜いた状態で行うことを推奨します。

ここでは、SFP トランシーバの取り付けおよび取り外しの適切な方法について説明します。

ここでは、次の内容について説明します。

- 「SFP トランシーバの取り付け」 (P.3-7)
- 「SFP トランシーバの取り外し」 (P.3-8)

SFP トランシーバの取り付け

SFP トランシーバを取り付ける手順は、次のとおりです。

- ステップ 1** 静電気防止用リストストラップを取り付けて、使用手順に従います。
- ステップ 2** ポート ケージのダスト カバーを外します。
- ステップ 3** トランシーバのポート側のダスト カバーを外します。
- ステップ 4** 次のようにトランシーバをポートに差し込みます。
 - マイラー タブ付きのトランシーバの場合、タブが下にくるようにし、ポートにしっかりとハマるまでトランシーバをゆっくり差し込みます。
 - ベールクラスプ付きのトランシーバの場合、クラスプが下になるようにし、クラスプを持ち上げてトランシーバの上部で閉じてから、ポートにしっかりとハマるまでトランシーバをゆっくり差し込みます。



注意

トランシーバが取り付けにくい場合は、トランシーバの向きと、タブやクラスプの位置が正しいかどうかを確認してください。



(注)

ケーブルをトランシーバに接続できない場合は、トランシーバのケーブル側にダスト プラグを取り付けるか、またはそのままにします。

SFP トランシーバの取り外し

SFP トランシーバを取り外す手順は、次のとおりです。

- ステップ 1** 静電気防止用リストストラップを取り付けて、使用手順に従います。
- ステップ 2** トランシーバにケーブルが接続されている場合は、次の手順を実行します。
- あとで参照するために、ケーブルとポートの接続を記録しておきます。
 - ケーブルのリリース ラッチを押し、コネクタの接続部付近をつかんで、コネクタをトランシーバからゆっくり引き抜きます。
 - ダスト プラグを、トランシーバのケーブル側に差し込みます。



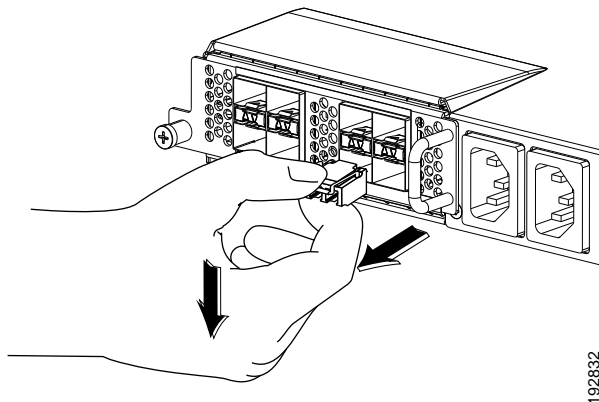
注意 次の手順でトランシーバが容易に外せない場合は、トランシーバを完全に押し込んで、ラッチが正しい位置にあるかどうか確認してください。

- ステップ 3** ポートからトランシーバを取り外します。
- マイラー タブ ラッチ付きのトランシーバの場合、タブをまっすぐに（ひねらずに）ゆっくり引っ張り、ポートからトランシーバを抜き取ります。
 - ベールクラスプ ラッチ付きのトランシーバの場合、下方向にクラスプを押し開き、ポートからトランシーバを抜き取ります。



(注) ベールクラスプ付きの SFP トランシーバを取り外しにくい場合、一旦ベールクラスプを上位の位置に戻して SFP を再固定します。そして、SFP をケージの内側に向かって上向きに押します。次に、ベールクラスプを下げ、SFP に軽く上向きの力をかけながら引き出します（[図 3-2](#) を参照）。このとき、ポート ケージを傷つけないよう注意してください。

図 3-2 ベールクラスプ付き SFP トランシーバの別の取り外し方法



- ステップ 4** トランシーバを工場に返送する場合、トランシーバのポート側にダスト カバーを挿入し、トランシーバを静電気防止用マットの上に置くか、または静電気防止袋に入れます。
- ステップ 5** 別のトランシーバが取り付けられていない場合は、オプティカル ケージにきれいなカバーを挿入して保護します。

SFP トランシーバのケーブルの取り付けまたは取り外し

**注意**

光ファイバケーブルの損傷を防ぐために、ケーブルに公称制限値を超える張力をかけないでください。また、ケーブルに張力がかかっている場合でも、ケーブルを半径 1 インチ未満に曲げないでください。ケーブルに張力がかかっている場合は、半径 2 インチ未満に曲げないでください。

ここでは、次の内容について説明します。

- 「SFP トランシーバへのケーブルの取り付け」(P.3-9)
- 「SFP トランシーバからのケーブルの取り外し」(P.3-9)

SFP トランシーバへのケーブルの取り付け

**注意**

ケーブルやトランシーバの破損を防止するため、トランシーバへのケーブルの取り付けは、トランシーバをポートに設置してから行ってください。

トランシーバにケーブルを取り付ける手順は、次のとおりです。

- ステップ 1** 静電気防止用リストストラップを取り付けて、使用手順に従います。
- ステップ 2** ケーブルのコネクタのダストカバーを外します。
- ステップ 3** トランシーバのケーブル側のダストカバーを外します。
- ステップ 4** ケーブルコネクタをトランシーバに合わせ、しっかりはまるまでコネクタをトランシーバに差し込みます。

**注意**

ケーブルを取り付けにくい場合は、ケーブルの向きを確認してください。

接続の確認手順については、『[Cisco UCS Manager CLI Configuration Guide](#)』を参照してください。

SFP トランシーバからのケーブルの取り外し

**注意**

トランシーバからケーブルを引き抜くときは、ケーブルのコネクタ部分を持ってください。コネクタの光ファイバケーブル端子が損傷することがあるので、ジャケットスリーブを持って引っ張らないでください。

**注意**

ケーブルを抜きにくい場合は、ケーブルのラッチが外れているかどうか確認してください。

ケーブルを取り外す手順は、次のとおりです。

- ステップ 1** 静電気防止用リストストラップを取り付けて、使用手順に従います。

- ステップ 2** ケーブルのリリース ラッチを押し、コネクタの接続部付近をつかんで、コネクタをトランシーバからゆっくり引き抜きます。
- ステップ 3** ダスト プラグを、トランシーバのケーブル側に差し込みます。
- ステップ 4** ダスト プラグを、ケーブル端に差し込みます。
-

SFP トランシーバおよび光ファイバケーブルのメンテナンス

高精度の信号を維持し、コネクタの損傷を防ぐためには、SFP+ トランシーバと光ファイバケーブルを常に埃のない清潔な状態に保つ必要があります。減衰（光損失）は汚れによって増加します。減衰量は 0.35 dB 未満でなければなりません。

メンテナンスの際には、次の注意事項に従ってください。

- SFP トランシーバは静電気に敏感です。静電破壊を防止するために、シャーシに接続している静電気防止用リストストラップを着用してください。
- トランシーバの取り外しおよび取り付けは、必要以上に行わないでください。取り付けおよび取り外しを頻繁に行うと、耐用年数が短くなります。
- 未使用の光接続端子には、必ずカバーを取り付けてください。埃が付着した場合には、埃によって光ファイバケーブルの先端が傷つかないように、使用前に清掃してください。
- 指紋などで汚れることがあるので、コネクタの先端には手を触れないでください。
- 定期的に清掃してください。必要な清掃の頻度は、設置環境によって異なります。また、埃が付着したり、誤って手を触れたりした場合には、コネクタを清掃してください。ウェットクリーニングやドライクリーニングが効果的です。設置場所の光ファイバ清掃手順に従ってください。
- 埃が付着していないこと、および損傷していないことを定期的に確認してください。損傷している可能性がある場合には、清掃後に顕微鏡を使用してファイバの先端を調べ、損傷しているかどうかを確認してください。